

母…33歳、高校卒業後、会社勤めをしていたが、すぐに結婚し、本人を出産する。その後また会社勤めをしていたが、現在は家に居り家事をしている。家庭の中で発言権をもち、子どもの養育にも熱心である。PTA活動など対社会的役割にも積極的である。

妹（二女）…小学1年、生活能力があり、なんでも自分でするような積極性がある。友人関係もうまくいっている。

祖父…60歳、団体役員、社会的な信望も厚く、各種の要職を勤めてきた。家庭では戸主であり、家庭内のことについてとりしきっていた。本人を小さいときからかわいがった。

祖母…54歳、何ごとについてもよく気がつき、炊事をする。対社会的な役割もこなしてきている。本人の養育には、乳児期からかわわり、本人が母に叱られたときなどの逃げ場所になっていた。

#### ● 本人の発達史

乳児期…手のかからない子で静かだった。泣くとすぐに母乳を与えた。

いつも母のそばに寝かせていた。泣くとすぐに誰かが抱いていた。

3歳…母が病気で入院した時、「お母さんがいない」と泣くことが多く、まわりを手こずらせた。つめかみがみられた。

4歳…母が会社に勤めるようになった時、朝の出勤の際、本人が母からなかなか離れず手こずらせた。本人をだましだまし出かけたり、かくれるようにして行った。そんな時、本人はいつも「お母さん、お母さん」と泣いていた。

5歳…幼稚園に入る。近所の子と遊んだが、他の家にはあまり行こうとしなかった。のんびりで幼稚園に行くのがなかなかできなかった。

6歳…妹が生まれる。祖母とはなく、父と一緒に寝たが、母のそばに行こうとした。しかし、あまり手をかけることができなかったせいか、いつも淋しそうだった。

7、8歳…気分左右されやすく、友だちとのトラブルが多かった。

9歳…妹とのあそびがあると、常に「大きいくせに」と言われることが多かった。

10歳…仲間はずれをする傾向があったり、わがままな行動があった。

ここ2年間ぐらい

- よく顔をしかめたり、目をパチパチさせたりすることがある。
- 憶病で、暗いところではトイレにも一人で行けず、電気を全部つけてから行く。
- 寝る時は、両親と一緒にの時間に寝ようとしたが、背中をかいてとか母の手をさわりたいがる。
- 母と一緒に風呂に入ろうとする。
- 母のそばにすわりたがり、いつも一緒にいたがる。
- 母の居場所、存在、行き場所などをしつこく確かめることがあり、母親への甘え、依存的な態度が今でも残っている。

#### ● 家族関係

祖父母がまだ家庭の中心ではあるが、子どもの養育は両親にまかされていた。

母親は、どちらかといえば自己中心的で、わがままなところがあり、養育も一貫したところがない。本人が学校で問題をおこしたりすると、そのことを過度に責めたり、感情的にあたりちらしたり、恥ずかしい思いをしたと本人に対して悪感情を抱いたりする。日ごろは放っておきながら、不安に思ったりすると子どもがうるさがるほど世話をしたり、手伝ってやったりする。また、口では「ばか」とか「だめ」とかいいながら、学業などについては内心気にしたり、さいそくしたり期待するなど矛盾したかわりをする。子どもの教育やしつけについて、夫の考えと一致しないと感じており、不満に思っている。時には子どもの前で、夫と言い争うことが多い。

今でも本人が抱っこをしてもらいたがったり、すり寄ったり、うしろから抱きついたりすると、「なんだ、大きくなって——」と拒むことが多い。

父親は、本人から見ても静かでやさしい面が多い。夫婦が本人の前で言い争いをすると、夫の方